

高校生の自尊感情と性に対する意識

About Self-Esteem Affection and Consciousness about Sex of High School Students

丸 岡 里 香

Rika MARUOKA

I はじめに

近年、思春期の社会的問題として人間関係の希薄さ、性行動の低年齢化、性の曖昧な知識、若者の喫煙や薬物の乱用、不登校、引きこもり、10代の人工妊娠中絶や性感染症の増加などがあげられている¹⁾。これらに対し2000年に21世紀の母子保健のビジョンを示した「健やか親子21」が策定された。その主要課題のひとつに「思春期の保健対策の強化と健康教育の推進」があり²⁾学校教育において健康教育が重視されてきた。その結果、現在の高校生の約9割が性教育、喫煙、薬物などに対する健康教育を受けている。しかし、正しい避妊行動や性感染症の予防に対する行動を実施しているのは5割程度であり^{3)~5)}、未成年者の知識が行動化する過程の教育が必要とされている。

従来、日本の健康教育は知識を伝えることに重点がおかれてきたが、今後は、生きるための能力であるライフスキルを基盤とした健康教育が必要であると考えられる。Botvin, GJ⁶⁾によるとライフスキルの低さは健康の問題行動と深くかかわると述べている。アメリカで開発されたKYB (Known Your Body) カリキュラムを基に、川端ら⁷⁾は日本の学校教育におけるライフスキル教育の実践に向けたプログラムの開発や研究を行っている。

思春期の健康行動はその後の成人の健康習慣に影響するといわれていることから、今後の性の健康教育のために現代の高校生の自尊感情と性に関する意識について、その現状と関連について明らかにすることを目的とした。

II 研究方法

1. 調査対象者

北海道内の協力の承諾が得られた男女共学全日制公立高等学校9校の1～3年生1289名を対象に無記名自記式質問紙を配布し、1288名より回収した(回収率99.9%)。有効回答は1217名(有効回答率94.5%)。

2. 調査期間

平成15年10月から11月

3. 調査方法

協力の承諾が得られた学校に各生徒用協力依頼書、同意書、自己記入式質問紙を持参または送付し同意を得られた生徒を対象とした。質問紙は担任を通して配布しその場で記入し、のりつき封筒に入れたものを回収した。

4. 調査内容

- 1) 生徒の背景 (性別, 学年)
- 2) 性に関する意識
- 3) 自尊感情 (Rosenberg による全般的自尊感情尺度10項目: 以下 SE とする)

5. 分析方法

統計ソフト「SPSS11.5.forWindows」使用。分析は各項目を男女別に単純集計した。項目間の関連についてはクロス集計, χ^2 検定を行い, 5%以下の危険率で関連があった場合を有意とした。さらに SE を平均 \pm SD から「高い群」「平均群」「低い群」に分類し, KruskalWallis 検定, Mann-Whitney 検定にて多重比較を行なった。

Ⅲ 倫理的配慮

- 1) 研究協力の依頼は調査者が口頭または文書にて説明し, 承諾が得られた施設に説明文書, 同意書, 質問紙を配布し生徒個人に参加の意志を記載してもらい質問紙とともに保管した。
- 2) 研究協力校や研究対象者の匿名と秘密を保持し, 得られた情報は本研究および関係学会での発表以外の目的では使用しないことを保証した。
- 3) いつでも調査協力を拒否・中止することができ, それによる不利益を被らないことを保証した。
- 4) 質問紙の記入中は机間巡視のないようにあらかじめお願いをした。
- 5) 質問紙の記入後は個別の封筒に本人が封印後に回収した。
- 6) 質問紙は施錠できる部屋で保管し, 研究終了後に破棄することを保証した。

Ⅳ 結 果

1. 自尊感情について (表1)

SE の得点の平均は, 全体では26.6, 男女別では男子25.7, 女子26.2であり, 各学年とも女子の得点が高く, 全体的女子と男子では, 女子が有意に高い得点であった。学年別では3年生が一番高く26.6, 次いで1年生の25.9, 2年生25.7順であり, 3年生が有意に高い得点であった。

表1 自尊感情の平均値

		人数	平均値	SD
全体		1217	26.0	2.5
男女別	男子	584	25.7	2.6
	女子	633	26.2	2.4
学年別	1年生	738	25.9	2.5
	2年生	251	25.7	2.5
	3年生	228	26.6	2.5

2. 性に関する意識

1) 第二性徴について

「第二性徴についてどう感じたか」の問いでは、「安心した」が268名 (21.3%) と最も多く、次いで「戸惑った」が205名 (16.3%)、「嫌だと思った」が181名 (14.4%)、「照れくさかった」155名 (12.3%)、「恥ずかしかった」148名 (11.8%)「うれしく思った」が114名 (9.1%) の順であった。

2) 「自分の性をどう思うか」では、「良かったとおもう」が629名 (50.1%) と最も多く、次いで「なんとも思わない」が525名 (41.8%)、「嫌だと思ふ」が84名 (6.7%) であった。男女の差では「良かったと思ふ」が男子に多く、「嫌だと思ふ」が女子に各々有意に多かった。「嫌だ」と思った理由は「なんとなく」が最も多く、次いで「性差別を感じるから」「今の性に違和感があるから」の順であった。

3) 「高校生の異性との交際について望むこと」の問いでは (表2)、「精神的な支え」が838名 (66.7%) と最も多く、次いで「手をつないだりキスをする」408名 (32.5%)、「いつも一緒に行動する」407名 (32.4%)、「セックスをする」192名 (15.3%) の順であった。男女の差をみると「いつも一緒に行動する」「セックスをする」「将来結婚する」が男子に多く、「精神的な支え」が女子が有意に多かった。

表2. 交際に望むこと：男女差

	総計	(a)	男子	(b)	女子	(c)	男女差	p
精神的な支え	838	(66.7)	372	(62.1)	466	(70.9)	0.003	
いつも一緒に行動する	407	(32.4)	223	(37.2)	184	(28.0)	0.002	
手をつないだりキスをする	408	(32.5)	196	(32.7)	212	(32.3)	n.s	
セックスをする	192	(15.3)	131	(21.9)	61	(9.3)	0.000	
将来結婚する	120	(9.6)	69	(11.5)	51	(7.8)	0.024	
興味がない	122	(9.7)	63	(10.5)	59	(9.0)	n.s	
その他	33	(2.6)	14	(2.3)	19	(2.9)	n.s	

各項目は複数回答による

検定： χ^2 乗

n.s: 有意差なし

a: 全体総数の中でこの項目を選択した人の%

b: 男子全体の中でこの項目を選択した人の%

c: 女子全体の中でこの項目を選択した人の%

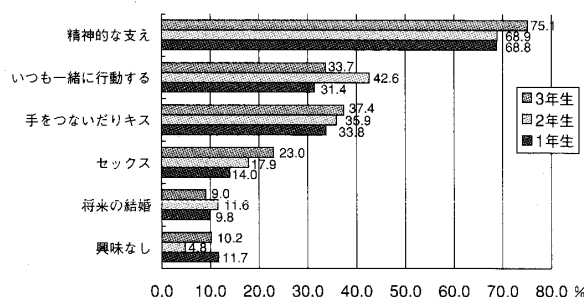


図1. 交際に望むこと：学年差

この項目について学年による違いをみたところ (図1), 3学年共に「精神的な支え」を望んでいる者が約70~75%であり, 「手をつないだりキスをする」「いつも一緒に行動する」に比較すると有意に多い割合であった。学年の差では「いつも一緒に行動する」「セックス」「興味なし」で有意な差がみられている。

4) 「高校生の性行為についてどう思うか」の問いには (表3), 「本人同士がよければよい」が625名 (51.5%) と最も多く, 次いで「責任が取れるなら良い」が502名 (42.2%), 「愛情が

「あればよい」は494名 (41.2%) の順であった。また「早いと思わない」395名 (30.9%)、
 に対し「まだ早い」は168名 (13.4%) であった。

学年差では (図2) 「愛情があればよい」「早くない」に有意な差がみられた。

表3. 性行為についての考え：男女差

	総計	(a)	男子	(b)	女子	(c)	男女差 p
本人同士がよければよい	625	(51.5)	288	(49.8)	337	(53.0)	n.s
責任が取れるなら良い	502	(42.2)	209	(37.0)	293	(47.0)	n.s
愛情があればよい	494	(41.2)	213	(37.2)	281	(44.7)	n.s
早いと思わない	365	(30.9)	166	(29.4)	199	(32.2)	n.s
まだ早い	168	(13.4)	73	(12.2)	95	(14.5)	n.s
関心がない	89	(7.6)	50	(8.9)	39	(6.4)	n.s
その他	17	(1.4)	9	(1.5)	8	(1.2)	n.s

各項目は複数回答による

検定：χ² 乗

n.s：有意差なし

a：全体総数の中でこの項目を選択した人の%

b：男子全体の中でこの項目を選択した人の%

c：女子全体の中でこの項目を選択した人の%

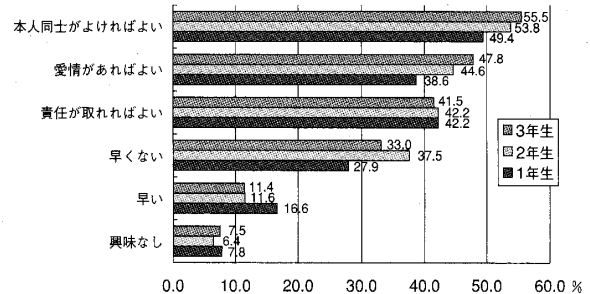


図2. 性行為についての考え：学年差

5) 性への関心について (表4)

「異性の気持ち」では、「まあまあ知りたい」が735名 (58.5%) と最も多く、次いで「とても知りたい」333名 (26.5%)、「あまり知りたくない」124名 (9.9%)、「まったく知りたくない」30名 (2.4%) であり男女差は見られない。「異性との付き合い方」では、「まあまあ知りたい」が787名 (62.7%) と最も多く、次いで「とても知りたい」240名 (19.1%)、「あまり知りたくない」124名 (9.9%)、「まったく知りたくない」37名 (3.0%) の順であり男女差はみられない。「性行為について」では、「まあまあ知りたい」が695名 (55.3%) と最も多く、次いで「あまり知りたくない」298名 (23.7%)、「とても知りたい」159名 (12.7%)、「まったく知りたくない」57名 (4.5%) の順であった。

表4. 性について知りたいこと

	総計	(%)	男子	(%)	女子	(%)	p	
異性の気持ちについて								
(n=1252)	とても知りたい	333	(26.6)	161	(27.0)	172	(26.3)	n.s
	まあまあ知りたい	735	(58.7)	354	(59.3)	381	(58.2)	
	あまり知りたくない	124	(9.9)	53	(8.9)	71	(10.8)	
	全く知りたくない	30	(2.4)	16	(2.7)	14	(2.1)	
	無回答	30	(2.4)	13	(2.2)	17	(2.6)	
異性との付き合い方について								
(n=1250)	とても知りたい	240	(19.2)	132	(22.1)	108	(16.5)	n.s
	まあまあ知りたい	787	(63.0)	362	(60.6)	425	(65.1)	
	あまり知りたくない	156	(12.5)	71	(11.9)	85	(13.0)	
	全く知りたくない	37	(3.0)	18	(3.0)	19	(2.9)	
	無回答	30	(2.4)	14	(2.3)	16	(2.5)	
性行為について								
(n=1249)	とても知りたい	159	(12.7)	104	(17.4)	55	(8.4)	0.000
	まあまあ知りたい	695	(55.6)	350	(58.7)	345	(52.8)	
	あまり知りたくない	298	(23.9)	99	(16.6)	199	(30.5)	
	全く知りたくない	57	(4.6)	25	(4.2)	32	(4.9)	
	無回答	40	(3.2)	18	(3.0)	22	(3.4)	
性感染症について								
(n=1254)	とても知りたい	235	(18.7)	100	(16.7)	135	(20.6)	0.007
	まあまあ知りたい	728	(58.1)	341	(57.0)	387	(59.0)	
	あまり知りたくない	214	(17.1)	113	(18.9)	101	(15.4)	
	全く知りたくない	39	(3.1)	25	(4.2)	14	(2.1)	
	無回答	38	(3.0)	19	(3.2)	19	(2.9)	
避妊について								
(n=1251)	とても知りたい	240	(19.2)	106	(17.8)	134	(20.5)	n.s
	まあまあ知りたい	720	(57.6)	341	(57.2)	379	(57.9)	
	あまり知りたくない	206	(16.5)	103	(17.3)	103	(15.7)	
	全く知りたくない	42	(3.4)	25	(4.2)	17	(2.6)	
	無回答	43	(3.4)	21	(3.5)	22	(3.4)	

検定：χ² 乗

n.s：有意差なし

男女差では、「とても知りたい」では男子が有意に多かった (p<0.001)。「性感染症について」では、「まあまあ知りたい」が728名 (58.0%) と最も多く、次いで「とても知りたい」235名 (18.7%)、あまり知りたくない214名 (17.0%)、まったく知りたくない39名 (3.1%) の順であった。男女差では、「とても知りたい」では男子が有意に多かった (p<0.01)。「避妊方法について」では、「まあまあ知りたい」が720名 (57.3%) と最も多く、「とても知りたい」240名 (19.1%)、「あまり知りたくない」206名 (16.4%)、「まったく知りたく

ない」42名(3.3%)であった。「性についてもっと知りたいことがあるか」の問いに、「ある」は42名(3.3%),「ない」は1150名(91.6%)であった。

3. 性行動

「性行為の経験の有無」の問いでは、「ある」が275名(21.9%),「ない」が923名(73.5%),無回答が58名(4.6%)であった。「性について困っていることはあるか」の問いには、「ある」が87名(6.9%),「ない」が1123名(89.4%)であった。知りたいことの内容は、「自分の性器について」、「妊娠しているか否か」「性感染症に罹患しているか否か」などであった。

4. 自尊感情と意識の関連

1) 「交際について望むもの」と自尊感情との関連 (図3)

次に、全般的SEの得点を平均値±SDを平均として3つの群に分けた。

その3群と「交際について望むもの」では3群とも「精神的な支え」が最も多い割合であった。3群の比較では「精神的な支え」と「興味なし」で有意な差がみられた。

2) 「性行為についての考え」と自尊感情との関連 (図4)

3群と高校生の性行為に関する意識では、3群とも「本人同士がよければよい」が40~50%で最も多く、次に「責任が取ればよい」「愛情があればよい」であった。

3群の比較では「責任が取ればよい」で有意な差がみられている。

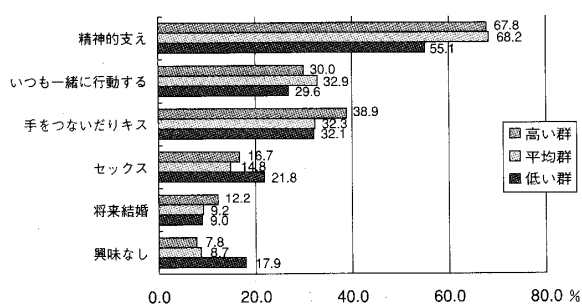


図3. 交際について望むこと：SE群別

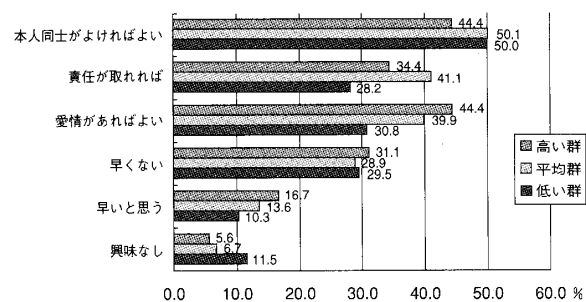


図4. 性行為についての考え：SE群別

V 考 察

思春期の健康な発達に切り離せない性の意識と行動について質問したところ、性の受容では、第二性徴について4割が「安心した」「うれしかった」という肯定的なとらえをし、3割が「嫌だった」「戸惑った」という否定的なとらえであった。久米ら⁸⁾は大学生の女子を対象に調査した結果、思春期に対する価値意識の低さが健康問題解決に影響すると述べている。また刀根ら⁹⁾は思春期を肯定的にとらえるか否かが将来の健康不安に影響すると述べている。最近学校や地域における性教育がさまざまな形で実施されているが、生きることにつながる性を肯定的にとらえられる自尊感情や相手を尊重するコミュニケーションスキルを培う健康教育として性教育は包含されることが望ましいと考える。また、現在の性の受容に関して男女の差が大

きく、女子に「嫌だ」と否定的にとらえている者が多い。宮原ら¹⁰⁾は、高校生、大学生を対象にした調査から、男子の否定理由は「男性に対する期待」「男らしさの要求」が理由であり女子では「社会において差別されている」であると述べている。本調査でも「なんとなく」に次いで多かったのは「性差別を感じるから」であり同様の傾向がみられている。こうした社会的な男女差が性行動に影響するといわれていることから¹¹⁾性の健康教育は相手を尊重できるスキルを培うことが必要と考える。性に関する意識について交際に望むことに関する問いでは男女の差が見られるものが多く、男子が多かったのは「いつも一緒に行動する」、「手をつないだりキスをする」、「セックスをする」、「将来結婚する」であり、女子が多かったのは「精神的な支え」であった。男女ともに多かったのは「精神的な支え」、次に「手をつないだりキスをした」と答えたものが多かった。性の発達として異性に触れたいという気持ちが現れている事は健康なセクシャリティの発達であるが、セックスをするでは男女の差が大きく女子は男子の半数以下であった。自由記載の性についての悩みのなかでは女子にセックスをしたくない、性行為の意味を知りたいなどがあり、性行為と関係性を維持することに悩む女子の存在が見えている。性行為についての考えでは、「まだ早いと思う」は、「早いと思わない」の半分以下であり、愛情があれば、責任が取れば、本人同士がよいならと容認する態度は宮原ら¹⁰⁾の調査と同様であった。

性について知りたいことでは、いずれの項目もまあまあ知りたいと答えているものが一番多い。「異性の気持ちについて」、「異性との付き合いについて」、に男女間の有意差はみられていない。また、性行為については男子が女子の倍「とても知りたい」に、逆に「あまり知りたくない」に女子が男子の倍となっているのは日本性教育協会による全国調査¹²⁾よりも差が大きい。また性感染症について女子が「とても知りたい」に多いのは同調査と同様の結果であった。従って、全国調査と同じく男子は目の前の行為について知りたいと考え、女子はその先の感染症や避妊について考えているという男女の違いが現れている。

Ⅶ ま と め

北海道の高校生を対象に自尊感情と性に対する意識などについて質問紙調査を行い、自尊感情の高低による関連をみたところ、「交際に望むもの」では、「精神的支え」「興味なし」にSE 3群の有意な差がみられた。「高校生の性行為についての考え」では、「責任が取ればよいと思う」にSE 3群の有意な差がみられた。このことから、SEの低い群の性に関する意識には、その他に比較して「興味がない」が有意に高いなどの特徴がみられ、性の健康行動に課題があることが予測される。

付 記

本研究は札幌医科大学大学院保健医療学研究科において修士論文「高校生のライフスキルと健康行動の関連」としてまとめたものを加筆修正したものであり、この他の調査項目の報告は浅井学園大学人間福祉研究第9号、浅井学園大学短期大学部研究紀要第44号に発表予定である。なお、日本思春期学会第23回学会総会学術集会にて報告していることを付記する。

引用文献

- 1) 日本性教育協会：「若者の性」白書。第5回青少年の性行動全国調査。東京，小学館，2001，p 28-34
- 2) 新道幸恵編集：母性看護学概論・母性保健/女性のライフサイクルと母性看護。東京，メヂカルフレンド社，2003，p 111-114
- 3) 剣陽子，山本恵美子，松田晋也：北九州市内の高校3校における性意識・性行動調査。日衛誌56：664-672，2002
- 4) 須藤廣：高校生のジェンダーとセクシュアリティ。東京，小学館，2002，p 100-101
- 5) 斎藤益子，木村好秀：高校生の性意識と性行動に関する実態－都立某公立高校における成績。思春期学17(2)：263-271，1999
- 6) 川端徹朗：ライフスキルと健康教育。学校保健研究45 (suppl)：6-7，2003
- 7) 川端徹朗編：「健康教育とライフスキル学習」理論と方法。東京，明治図書，2000，p 9-28
- 8) 久米美代子，村山より子，小川久貴子他：女性の健康支援－思春期の価値意識と健康問題解決との関連。思春期学 Vol.19(1)：83-90，2001
- 9) 刀根洋子，鈴木祐子，及川裕子他：女性の健康支援－思春期に対する価値意識と将来の健康不安との関連。母性衛生 4(24)：657-662，2001
- 10) 宮原忍，千賀悠子，斎藤幸子他：第3報 高校生の性行動と意識について。日本子ども家庭総合研究所紀要第36 73-95 2000
- 11) 前掲書4) p 102-136
- 12) 前掲書1) p 72-79